

平成24年度第4回 独立行政法人労働者健康福祉機構契約監視委員会〔概要〕

開催日時	平成25年3月25日（月）13:00～15:00
場 所	労働者健康福祉機構本部 会議室
委 員	田極春美（三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）主任研究員） 竹内啓博（公認会計士） 山本 勲（慶應義塾大学商学部准教授） 海野哲也（独立行政法人労働者健康福祉機構監事） 東海直文（独立行政法人労働者健康福祉機構監事（非常勤））
審議対象	1. 平成24年11月から平成25年1月までに締結した競争性のない随意契約の点検・見直しについて 2. 平成24年11月から平成25年1月までに締結した一者応札・応募の契約の点検・見直しについて 3. 平成24年11月から平成25年1月までに締結した契約のうち2か年度連続一者応札・応募案件に係る点検・見直しについて
議事概要	1. 担当部局から、審議に当たっての事前説明を行い、委員会における審議方法について了承を得た。 （1）審議対象 平成24年11月から平成25年1月までに締結した契約 233件のうち ①競争性のない随意契約であったもの 8件 ②一者応札・応募であったもの 46件 ③上記②のうち、2か年度連続一者応札応募であったもの 5件 （2）選定方法 ①審議案件の選定委員である竹内委員により審議対象別に説明案件を選定 ②竹内委員から選定に際してのポイントの説明（全会一致で了承） （3）選定ポイント イ 競争性のない随意契約については、「随意契約によらざるを得ない」案件を改めて検証する観点から、次の①から③の基準により選定 ①過去の契約監視委員会において「随意契約によらざるを得ない」と判断された契約を除いたもの（調達内容が類似しているものについては代表例を選定） ②コスト削減の余地があるものとして、契約金額が高額なもの ③事前選定の場において、契約案件リストから選定委員により任意に抽出されたもの ロ 一者応札・応募については、一般競争入札の主旨である経済的効果を望める観点から、次の①から③の基準により選定

	①コスト削減の余地があるものとして、契約金額が高額なもの ②落札率が100%又は100%に近いもの ③事前選定の場合において、契約案件リストから選定委員により任意に抽出されたもの ハ 2か年度連続一者応札・応募については、次の基準により選定 一者応札・応募に係る点検であることから、上記ロと同様の基準により選定(今回は、全件選定) 2. 審議案件(別紙参照) (1) 競争性のない随意契約(1件) ①SPECTガンマカメラ (2) 一者応札・応募(8件) ①富山労災病院敷地調査業務 ②患者監視装置 ③RI放射線管理設備更新工事 ④病院井戸水質改善改修工事 ⑤手術室自動制御機器更新工事 ⑥デジタル式X線一般撮影システム2式 ⑦4階西病棟HCCU室空調設備改修工事 ⑧地下水膜ろ過給水システム (3) 2か年度連続一者応札・応募(5件) ①除排雪業務 ②除排雪業務 ③二酸化炭素消火設備二酸化炭素貯蔵容器取替 ④ガス供給業務 ⑤電気供給業務
--	---

審議概要	3. 主な審議内容（○委員 ●担当部局） （１）競争性のない随意契約 ①SPECTガンマカメラ ● 当該機器は１８年経過による老朽化のため、平成２５年度に更新を予定していたが、故障が発生し交換部品の供給もストップしていたため修理不能となった。 機器の故障は病院業務に重大な支障を来するため早期に整備する必要がある、随意契約によることとしたもの。 ○ 老朽化についての見通しが甘かった。 手続きとしては、随意契約審査会を開催して随意契約としており、本件の緊急性からやむをえない事案と考える。 （２）一者応札・応募 ①富山労災病院敷地調査業務 ● 増改築工事に係る敷地調査である。複数者が入札説明書を取りに来ていたが、結果として１者応札となった。 過去の同様の入札について複数応札になっていた。今回の１者応札の原因としては、東日本大震災の復興事業の影響で実施可能な人材確保に支障が出たのではないかと考えられる。 ○ 公告期間が平日１１日ではあるがもう少し長く取った方がよいように思われる。 ○ 入札説明書を取りに来て参加されなかった業者へのヒアリングの実施が望まれる。 ②患者監視装置 ● 複数者が対応可能な仕様書にしており、公告期間についても政府調達に該当するため５０日以上確保している。 業者への声かけも十分に周知してきたつもりであったが、一者応札となった。 ○ 仕様書に記載されている調達物品の機能が多く、自分のところが当てはまるのかどうかチェックするだけでも大変。仕様書の作成にあたっては、もう少し競争性を意識して、入札に参加しやすい仕様にするよう検討する必要がある。 ③ＲＩ放射線管理設備更新工事 ● 他業者でも対応可能な工事であるが、入札準備に手間取り年度内に工事を完成させるため、十分な公告期間を確保できなかった。 ○ 入札の条件として厚生労働省の競争参加資格の認定を求めているが、民間病院でいろいろな実績があれば問題のな
------	--

い条件と思われるが如何か。

- 平成23年度から、国の資格を準用している。取引業者の9割くらいが国の資格を持っているので影響は少ないと考えている。問題のある業者かどうかの審査も必要。
- できるだけ広く有資格者が応札できる状況を整えるためにも公告期間の確保に配慮すべきである。
- 設備更新について計画的な事前準備を怠らないよう努めること。

④病院井戸水質改善改修工事

- 入札準備に手間取り、年度内に工事を完成させるためには、十分な公告期間を確保できなかった。
- 応札要件が結構あり、それをクリアしていることが大切。厚労省の競争参加資格が外せないのであれば、できるだけ広く有資格者が応札できる状況を整えるためにも公告期間の設定に配慮すべきである。
- 施工可能な業者の確保のために情報収集を積極的に行うこと。

⑤手術室自動制御機器更新工事

- 急性期病院での施工実績要件を持つところが少なく、それが一者応札の原因となったと考えられる。
- 資格要件が電気通信工事のBまたはCランクで限定され、近畿地方の入札参加資格で急性期500床以上の施工実績が必要で、要件が厳しいものとなっている。
- 入札参加資格や仕様書内容について、競争性導入の観点から、特定業者に絞り込んでしまうことのないよう検討すること。

⑥デジタル式X線一般撮影システム2式

- 政府調達案件に該当し、公告期間は規定による50日を確保しているが、納期確保を重視し、資料招請、意見招請を省略したため、各メーカーの意見が反映できず、結果的に一者応札になった。
- 政府調達案件は資料招請、意見招請の手続きが取れるよう、早めに準備すること。

⑦4階西病棟HCCU室空調設備改修工事

- HCCUの温度設定が利かなくなり、急遽、改修工事をする事となり、公告期間を短縮した結果、1者応札となった。
- 緊急の場合は、公告期間を短縮できるが、カウントミス。最低限の公告期限は必ず確保すべきである。

⑧地下水膜ろ過給水システム

- 契約できる業者は少ないことから、参加業者がある程度限定される場合は、参入できそうな業者に情報提供し、応札を促すべきであった。
- ほかの病院で実績があれば、条件の違いなども確認すること。

(3) 2か年度連統一者応札・応募

①除排雪業務(道央せき損センター)

- ドクターヘリの着陸前にヘリポートを除雪しなければならず、時間的に市内の業者に限定されてしまう。
- 公募は実施している。市内の業者と交渉を重ね、何とか現業者に来ていただいたというのが実態である。
- 特殊事情があって、やむをえないケースと思われる。

②除排雪業務(釧路労災病院)

- 業者としては、現在、依頼されている除雪も満足に出来ない状況で、入札に参加してまで、新しい仕事を取りに行く余裕はないとの回答を得ている。
- 病院としては、出勤回数による単価契約から、重機毎の時間単価契約に切り替え、競争が働きやすい環境としている。
- 地域の特殊事情があって、やむをえないケースと思われる。

③二酸化炭素消火設備二酸化炭素貯蔵容器取替

- 消防設備の保守の入札は3者ぐらい応札して複数応札になっているが、今回は他業者にお知らせしていなかったもの。
- 競争性を確保する観点から、対応可能な業者へのお知らせを励行すること。

④ガス供給業務

- 現地でのガス業者の供給区域がほぼ決まっていて、一者応札になるのは避けられない。
- 公募を実施しながら新規参入業者を探していくしかない。

⑤電気供給業務

- 現地では6者の新規参入業者の参入業者があるようだが、結果的に1者応募であった。震災の影響もあるかもしれない。
- 公募を続け新規参入業者を探していくこと。